

あしの芽西組生活単元学習学習指導案

1 単元 「カフェあしのめ」をひらこう

2 単元目標

- (1) みんなで協力し「カフェあしのめ」を開く活動を通して、人との関わりを楽しみ、自分でできたという自信をもつことができる。
- (2) カフェや飲み物のことを調べたり、準備したりする活動に進んで取り組み、自分の力で飲み物を作ったり接客したりすることができる。
- (3) 友達やお客さんと関わりながら活動したことを話したり、絵や文で表したり、友達のいいところを見つけたりすることができる。

3 子どもと単元のとらえ方

あしの芽西組は、6年生(A)、5年生(B)、3年生の2人(C,D)の4名が在籍している。いずれも自閉症圏の児童で、ここ3年間同じ構成である。それぞれ個性も能力も様々な4人で、感情のコントロールが難しい面をもっている。特に3年生の二人は、お互いにライバル意識をもち、相手よりもがんばろうとするとところがある反面、ちょっとしたことがきっかけでけんかも絶えず、マイナスの関わりが目立っていた。昨年度の生活単元学習、「えこたんバスにのってでかけよう」や1学期の「竹島水族館に行こう」の実践を通して、約束を守って仲良く行動する力を少しずつつけてきた。「竹島水族館に行こう」では撮ってきた写真を展示して写真展を開いた。クイズを作って展示し、自分で説明をすることができ、大勢のお客さんに見てもらふことの喜びを味わったと同時に、今度はお店屋さんをやりたい(D)という願いをもった。子どもたちは、今までにウメジュースやふろふき大根を作って協力学級の友達や先生に振る舞った経験があり、お店屋さんごっこは好きな活動である。これまでの活動は「どうぞ」と出すところは子どもたちが行ったが、他の部分はかなり教師が手伝ってきた。そこで、自分たちで行うことが期待でき、普段の生活にも生かせる飲み物やさんを行うことを通して、人との関わりを楽しみ、自分でできる力を高めたいと願った。

子どもたちはカルピスが大好きである。手軽に作ることができ、自分で作ったという感覚をもつこともできる。薄めるものによってバリエーションができる。自分で作る活動は、楽しく取り組むことができ、子どもたちの生活を豊かにするだろう。またお店屋さんの活動は、たくさんお客さんに来てもらうためにはどうしたらいいだろうと知恵を絞る。メニューを考えたり、飾り付けをしたりする中で、協力して作業したり役割を分担したりすることで、コミュニケーションが生まれよう。接客、調理などを自分たちで行い、お客さんに喜んでもらう体験は、自信をつけ自己肯定感が高まり、そのような成功体験を積むことによって我慢する力をつけることにつながる。さらに、キャリア教育の観点からも、この体験は子どもたちの力となるに違いない。

本単元では、自信をもって取り組み、成功体験を得ることができるよう多くの支援を準備する。単元の前に、実際にいろいろな味、飲み方ができるようにカルピスなどを準備し、作って飲む活動を楽しんだ。また、ちょうどもかん農家のDの家庭から生搾りみかんジュースをいただいた。先生方に配り、喜ばれる体験から飲み物屋さんをやりたいという気持ちを高めることができた。喫茶店は子どもたちの生活にあまりなじみがない。そこで、近所のカフェに出かけ、実際に飲み物を注文して本物を体験した。本物の体験はこの活動を具体的に推し進める原動力になると考える。作るところを見せてもらい、スムージーの存在も知った。友達の意見を聞くのは苦手な子どもたちではあるが、共通の目標にむけて、どんな店にしたいか話し合ったり、活動の振り返りを伝え合った。話したことを教師が黒板に書くことで、子どもたちは自分がたくさん発言したり関わったりしたことを目で確かめることができる。また、自分たちで、お客さんと、店員になって練習することでごっこ遊びを楽しみ、技術を高めたい。自分たちで作ることができるように、作り方を視覚的に示しておく。分担した役割は、誰がいつどの役をやるのかを示し、見通しがもてるようにした。

本時は、カフェの本番の4回目である。交流会で出会った先生方にお客さんになってもらい、カフェをオープンする。大勢の先生方の前でも自信をもって活動できるように、見通しをもたせ、誰が何をやるのか内容とめあてをはっきりとさせておきたい。そして、終末には、それぞれの子が自分の活動を振り返り、できたという思いがもてるようにしたい。そのために友達ががんばっていたことを発表できるように投げかけたい。この活動を通して、経験を広げ、自信をつけ、さらに、家での活動につなげたいと願う。

4 単元構想 「カフェあしのみ」をひらこう（生単 23 時間）

・梅ジュースを作ったよ。梅シロップ1ばいに水4はい入れた。味見をして、濃くしたらおいしくなったよ。友達に飲んでもらってうれしかった。

・ふろふき大根やさんをしたよ。味噌の種類を聞いて、お客さんに出したよ。おいしいって言ってもらって、うれしかったよ。

カルピスを作ってみよう（2）※1



- ・5倍にうすめるってかいてあるよ。
- ・初めて、自分で作ったよ。
- ・炭酸水でわると、カルピスサワーだね。
- ・いろんな味をためしたよ。

みかんジュースを飲んでもらおう（1）※2

- ・100%みかんのジュースおいしいね。
- ・先生たちがよろこんでくれて、うれしかったよ。
- ・違う味も飲ませてあげたいよ。

あれ

飲み物で、ぼくたちのお店をひらきたいな

どんなお店にしようかなジュースが飲める店がいいね。本物のお店に行ってみたいな。

ほんもののカフェ「スクルージ」に行ってみよう（2）※3

- ・初めて行ったよ。いろんな飲み物があるね。
- ・お店に生き物がいたよ。本があったよ。
- ・おいしかった。スムージーもおいしいね。
- ・機械がいっぱいあったよ。
- ・おまけに、せんべいをつけてくれたよ。
- ・コーラで実験をしてくれたよ。氷の順番があるんだ。

あれ

カフェスクルージはすてきだったね。なかよく、あしのみで最高のカフェをつくろう

お客さんがたくさんきてくれるような「カフェあしのみ」をひらこう

お客さんを呼べるようにカフェ「あしのみ」の準備をしよう（10）※5

お店で出すものを考えよう

- ・カルピス・カルピスソーダ
- ・スムージー
- ・作る練習もしよう。

必要なものを考えよう

- ・コップ・おぼん
- ・エプロンがあるね
- ・メニューを作ろう

お店の飾りを考えよう

- ・東組の「べんとうや」がヒントだね
- ・水族館の写真を飾ろう
- ・お店のかんばんを作ろう

役割をきめて練習しよう※6・※7・※8

フロア係「いらっしゃいませ」
注文を聞く「何にしますか?」「〇〇ですね」
こぼさないよう飲み物をとどける
「お待たせしました」

正確に伝える
注文通りに作る

キッチン係
「〇〇ですね」「〇〇できました」
・衛生に気をつけて
・片付けもしっかりと

フロア係の言い方を教えてもらおう。もう一度スクルージに行こう。

そうか

楽しくなってきたぞ。自分たちの店ができそうだ。よし、お客さんをよぼう。

お客さんを呼んでオープンだ！（7）本時 6/7 ※8・※9・※10

フロア係

- ・はっきりといらっしゃいませを言おう
- ・注文をまちがえちゃった。ちゃんと確かめよう。
- ・メニューを写真付きにしよう

職員室の先生をお客さんに呼んで
修正・改善して、レベルアップ
先生方をお客さんに呼んで。

あしのみ東・お友達を呼んで

研究発表会のお客様に

キッチン係

- ・おいしく作ろう
- ・作り方はばっちりかな
- ・初めて作るものがあるって、どきどきしたぞ。もっと練習したい。
- ・洗い物も上手になろう

3年D

- ・お客さんと話をするぞ。
- ・スムージーならお任せ

6年A

- ・びりびりのプロになるぞ
- ・スムージーも作りたいな

5年B

- ・フロアのプロになるよ
- ・友達の様子をよく見るよ

3年C

- ・オススメはカルピス
- ・たすけるよ。

できたよ。たくさんお客さんが来てくれたよ。喜んでくれたよ。自信がついたよ。もっとやりたいな。スクルージの人にも見てもらいたいな。

なるほど

スクルージの人を招待しよう。（2）※10

ぼくたちが作るから、見ていてね。じょうずにできるよ。洗い物までがんばるよ。

もっと

自分たちで上手にできたよ。こぼさずに上手に運べるよ。家でもやってみたいな。

○感性や問題意識を高める活動

- ※1 カルピスを作る体験を通して、もっとやってみたいという思いをもたせ、お店屋さんの活動につなげる。
- ※2 みかんジュースを先生方に配って飲んでもらい、喜んでもらうことを体験する。
- ※3 実際にカフェに出かけ飲み物を飲むことで、経験を広げ、自分たちの店作りに生かす。また、学校から近い店に協力を依頼し、必要に応じて何度も出かけられるようにする。

〈教師支援〉◆言語活動

- ※4 写真をもとに、カフェスクルージに行った感想を出し合い、店作りに生かす。◆
- ※5 材料や道具を工夫し、できる限り自分たちだけでできるようにする。東組の「べんとうや」を見に行つて活動のヒントにする。
- ※6 作り方やお店でのやりとりは、マニュアルを視覚的にも示し、ゆっくりははっきりやりとりができるようにする。
- ※7 練習は自分たちがお客さん役も交替で演じ、楽しみながらできるようにする。いつ、誰が何の役をするのか、見通しがもてるように、視覚的に示す。担任(フロア)、介助員(キッチン)と役割を分け、できる限りをこぼさないことで子どもたちの自主的な活動を見取る。
- ※8 活動の後は、必要に応じて映像や画像も使って自分の姿を見えるようにするとともに、感想交流をし、がんばったことをお互いに認め合う。児童の言葉を板書し、視覚的にもできたことを確認できるようにする
- ◆
- ※9 スキルが上達したことを評価できるようにバッジを作り、レベルアップするごとにエプロンに貼り付けるようにする。
- ※10 家での活動にまで広げられるように、家の人にも協力をお願いする。

5 本時の指導

(1) 目標

- ・カフェあしのための活動に自分たちで進んで取り組み、お客さんの対応ができる。
 (6年A) カフェの活動に取り組み、カルピスソーダなどを作ることができる。
 (5年B) フロア係として、お客さんや友達に声をかけ対応ができる。
 (3年C) 注文をよく聞いて、飲み物を作ることができる。
 (3年D) フロア係としてお客さんと話したり、そっと飲み物を運んだりできる。

(2) 準備

店の準備、フロア係の言葉ヒントの掲示、飲み物を作るレシピ掲示、交流会の写真

(3) 学習過程(45分)

時	学習活動 (発問と予想される反応)	・教師支援と評価(※)								
0	1 本時の学習活動について知る。 「カフェあしのため」でおきやくさんにたのしんでもらおう。									
	2 前時までをふりかえり、がんばるところを確認し、めあてを発表する。 やくわりとめあてをたしかめよう。									
	<table border="0" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 25%; text-align: center;">(3年D) フロア係①</td> <td style="width: 25%; text-align: center;">(6年A) キッチン係①</td> <td style="width: 25%; text-align: center;">(5年B) フロア係②</td> <td style="width: 25%; text-align: center;">(3年C) キッチン係②</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">←</td> <td style="text-align: center;">→</td> <td style="text-align: center;">←</td> <td style="text-align: center;">→</td> </tr> </table>	(3年D) フロア係①	(6年A) キッチン係①	(5年B) フロア係②	(3年C) キッチン係②	←	→	←	→	
(3年D) フロア係①	(6年A) キッチン係①	(5年B) フロア係②	(3年C) キッチン係②							
←	→	←	→							
10	3 「カフェあしのため」オープンに向けた最終準備をする。 お店の看板を出す いすを移動する いすを移動する	<ul style="list-style-type: none"> ・やることを箇条書きで示し、本時の見通しをもたせる。交流会の写真を示し、 ・前時までの活動を掲示の写真や映像でふりかえり、がんばるポイントを押さえる。 ※自分のめあてを発表することができたか。 								
	4 お店を開き、お客さんの対応をする。									
	<table border="0" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 25%; vertical-align: top;"> 「ご注文は」 「おすすめはスムージーです」お待たせしました 「ごゆっくりどうぞ」 ※お客さんと話ができたか。 </td> <td style="width: 25%; vertical-align: top;"> 「〇〇ですね」 ・目盛りが読めないの で専用の計量カップ を使って、作る。 「できました」 ※飲み物を作ることが できたか。 </td> <td style="width: 25%; vertical-align: top;"> 「いらっしやいませ」 「こちらにどうぞ」 「ご注文は」 「かしこまりました」 ※全体の様子を見なが ら、声掛けができた か。こぼさず運べた か。 </td> <td style="width: 25%; vertical-align: top;"> キッチンに入る。 ・注文を聞いて飲み物 を作る。 ・用事のないときは、 席に座って待つ。 ※自分の力で飲み物を 作ることができたか。 </td> </tr> </table>	「ご注文は」 「おすすめはスムージーです」お待たせしました 「ごゆっくりどうぞ」 ※お客さんと話ができたか。	「〇〇ですね」 ・目盛りが読めないの で専用の計量カップ を使って、作る。 「できました」 ※飲み物を作ることが できたか。	「いらっしやいませ」 「こちらにどうぞ」 「ご注文は」 「かしこまりました」 ※全体の様子を見なが ら、声掛けができた か。こぼさず運べた か。	キッチンに入る。 ・注文を聞いて飲み物 を作る。 ・用事のないときは、 席に座って待つ。 ※自分の力で飲み物を 作ることができたか。					
「ご注文は」 「おすすめはスムージーです」お待たせしました 「ごゆっくりどうぞ」 ※お客さんと話ができたか。	「〇〇ですね」 ・目盛りが読めないの で専用の計量カップ を使って、作る。 「できました」 ※飲み物を作ることが できたか。	「いらっしやいませ」 「こちらにどうぞ」 「ご注文は」 「かしこまりました」 ※全体の様子を見なが ら、声掛けができた か。こぼさず運べた か。	キッチンに入る。 ・注文を聞いて飲み物 を作る。 ・用事のないときは、 席に座って待つ。 ※自分の力で飲み物を 作ることができたか。							
30	5 本時を振り返り、感想を出し合う。 ふりかえりをしよう									
	<table border="0" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 25%; vertical-align: top;"> お客さんが喜んでく れてうれしかったで す。 </td> <td style="width: 25%; vertical-align: top;"> がんばりました。 できました。 </td> <td style="width: 25%; vertical-align: top;"> Cくんはまちがえず作 れた。がんばりました。 </td> <td style="width: 25%; vertical-align: top;"> ちゃんとできました。 ふざけずできました。 </td> </tr> </table>	お客さんが喜んでく れてうれしかったで す。	がんばりました。 できました。	Cくんはまちがえず作 れた。がんばりました。	ちゃんとできました。 ふざけずできました。					
お客さんが喜んでく れてうれしかったで す。	がんばりました。 できました。	Cくんはまちがえず作 れた。がんばりました。	ちゃんとできました。 ふざけずできました。							

(4) 評価

- ・4人が楽しく活動し、自分たちでできたという実感をもつことができたか。(行動・感想から)
 (6年A) キッチン係として張り切って飲み物を作ることができたか。
 (5年B) フロア係として、周りに気を配り友達のことを振り返ることができたか。
 (3年C) ふざけないで集中して取り組むことができたか。
 (3年D) フロア係として、進んでお客さんに話しかけることができたか。

○ 本時の視点

交流会で出会った先生にお客さんになってもらって自分たちでおもてなしたことは、カフェあしのための活動を楽しみ、自分たちでできるという自信をもたせるために有効であったか。